



CHAPTER 4

Cisco Unity Connection 8.x のインターネットメール用の音声プロファイル (VPIM) ネットワーク

Cisco Unity Connection は、業界標準のインターネットメッセージ用音声プロファイル (VPIM) プロトコルをサポートしています。このプロトコルによって、異なるボイスメッセージングシステム間で、ボイスメッセージとテキストメッセージをインターネットまたは任意の TCP/IP ネットワーク経由で交換できます。VPIM は、シンプルメール転送プロトコル (SMTP) および Multi-Purpose Internet Mail Extension (MIME; 多目的インターネットメール拡張) プロトコルを基礎としています。

VPIM ネットワーキングは、Cisco Unity Connection 2.x 以降のサーバ間、または Connection 2.x 以降のサーバと他の VPIM 互換ボイスメッセージングシステム (Cisco Unity 4.0 以降など) 間でのメッセージ交換に使用できます。サーバ検出およびディレクトリ同期の追加機能を利用できるのは、VPIM ではなくデジタル ネットワーキングを使用して複数の Connection 2.x 以降のサーバを接続した場合であることを注意してください。

VPIM ネットワーキングはライセンスが必要な機能です。Connection機能のライセンスを入手する方法については、『*System Administration Guide for Cisco Unity Connection*』 (Release 8.x) (http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/8x/administration/guide/8xcucsagx.html から入手可能) の「[Managing Licenses in Cisco Unity Connection 8.x](#)」の章を参照してください。

次の項を参照してください。

- 「[Cisco Unity Connection 8.x で VPIM ネットワーキングを使用するための設定](#)」 (P.4-1)
- 「[Cisco Unity Connection 8.x で VPIM ネットワーキングを使用するための設定手順](#)」 (P.4-3)
- 「[Cisco Unity Connection 8.x での VPIM 連絡先の削除](#)」 (P.4-16)
- 「[Cisco Unity Connection 8.x での VPIM ロケーションの削除](#)」 (P.4-16)
- 「[Cisco Unity Connection 8.x の VPIM の概念](#)」 (P.4-17)

Cisco Unity Connection 8.x で VPIM ネットワーキングを使用するための設定

ここでは、VPIM ネットワーキングの前提条件と、設定を完了するために必要なすべての作業の概要を含むタスク リスト、タスクを実行する順序について説明します。VPIM ネットワーキングについて詳しくない場合は、設定を開始する前に、まず「[Cisco Unity Connection 8.x の VPIM の概念](#)」 (P.4-17) を読み、タスク リストを確認してください。

次の項を参照してください。

- 「前提条件」 (P.4-2)
- 「タスク リスト : Cisco Unity Connection で VPIM ネットワーキングを使用するための設定」 (P.4-2)

前提条件

設定を始める前に、次の前提条件が満たされていることを確認してください。

- Cisco Unity Connection がインストールされ、ネットワークに接続されている。
- Connection がネットワーク接続されるリモート ボイス メッセージング システムが、『*System Requirements for Cisco Unity Connection*』 (Release 8.x) (http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/8x/requirements/8xcucsysreqs.html から入手可能) または『*System Requirements for Cisco Unity Connection*』 (Cisco Unified CMBE Release 8.x) (http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/8x/requirements/8xcucmbesysreqs.html から入手可能) のうち該当するドキュメントの「Requirements for VPIM Networking」の項に記載されている。
- VPIM ライセンスが含まれるライセンス ファイルを入手して、各 Connection サーバにインストールしている。

タスク リスト : Cisco Unity Connection で VPIM ネットワーキングを使用するための設定

Cisco Unity Connection で VPIM ネットワーキングを設定するには、次のタスク リストを使用します。リンクを使用すると、詳細な設定手順に移動できます。

1. 番号計画を決め、VPIM ネットワーキングの設定に必要な情報を収集します。「[設計上の決定と必要な情報の収集](#)」 (P.4-3) を参照してください。
2. リモート ボイス メッセージング システムと Connection 間でのメッセージングに使用されるドメイン名を決定します。「[ドメイン名の決定](#)」 (P.4-4) を参照してください。
3. 必要に応じて DNS ファイルを設定します。「[IP アドレスを使用した名前の解決](#)」 (P.4-5) を参照してください。
4. ボイス メッセージング システムとの間のネットワーク接続と SMTP 接続を確認します。「[リモート ボイス メッセージング システムとの接続性の確認](#)」 (P.4-5) を参照してください。
5. リモート ボイス メッセージング システムごとに VPIM ロケーションを作成します。「[VPIM ロケーションの作成](#)」 (P.4-6) を参照してください。
6. VPIM ロケーションごとに VPIM 連絡先を作成します。「[VPIM 連絡先の作成](#)」 (P.4-7) を参照してください。
7. オプションで、連絡先作成の設定値を VPIM ロケーションごとにカスタマイズします。「[VPIM 連絡先ディレクトリの更新設定のカスタマイズ](#)」 (P.4-12) を参照してください。
8. オプションで、各 VPIM ロケーションのユーザの別名を追加します。「[各 VPIM ロケーションのユーザの別名の追加](#)」 (P.4-15) を参照してください。
9. VPIM のリモート ボイス メッセージング システムを設定します。そのための正確な方法は、ボイス メッセージング システムによって変わります。ただし、Connection に関する情報をリモート システムに提供する必要があります。「[別のボイス メッセージング システムを VPIM 用に設定する](#)」

めの [Cisco Unity Connection に関する情報の収集](#) (P.4-15) を参照してください。

10. 設定をテストして、Connection がリモート ボイス メッセージング システムとメッセージを交換できることを確認します。

Cisco Unity Connection 8.x で VPIM ネットワーキングを使用するための設定手順

ここでは、Cisco Unity Connection で VPIM ネットワーキングを設定するために必要なすべての手順を説明します。次の項を参照してください。

- 「設計上の決定と必要な情報の収集」 (P.4-3)
- 「ドメイン名の決定」 (P.4-4)
- 「IP アドレスを使用した名前の解決」 (P.4-5)
- 「リモート ボイス メッセージング システムとの接続性の確認」 (P.4-5)
- 「VPIM ロケーションの作成」 (P.4-6)
- 「VPIM ロケーションのカスタマイズ」 (P.4-7)
- 「VPIM 連絡先の作成」 (P.4-7)
- 「VPIM 連絡先ディレクトリの更新設定のカスタマイズ」 (P.4-12)
- 「各 VPIM ロケーションのユーザの別名の追加」 (P.4-15)
- 「別のボイス メッセージング システムを VPIM 用に設定するための Cisco Unity Connection に関する情報の収集」 (P.4-15)

VPIM ネットワーキングの概念の詳細な説明については、「[Cisco Unity Connection 8.x の VPIM の概念](#)」 (P.4-17) を参照してください。

設計上の決定と必要な情報の収集

Cisco Unity Connection での VPIM ネットワーキングの設定を始める前に、次のことを計画し、該当する情報を収集します。

- 番号計画の方針を再確認して、VPIM ロケーションにプレフィックスを入力する必要があるかどうかを判断し、どの番号を VPIM ロケーションのダイヤル ID として割り当てるかを決定します。

次のポリシーをお勧めします。

- 固定長のダイヤル ID を採用し、可能な場合には固定長の内線番号を採用します。
 - 一意のダイヤル ID を割り当てます。ダイヤル ID は、他のダイヤル ID または内線番号と同じものにしないでください。
 - 少なくとも 3 桁のダイヤル ID を割り当てます。
 - ダイヤル ID の番号範囲は、内線番号の番号範囲とは別のものにします。001 や 002 など、内線番号と競合するダイヤル ID は使用しないでください。
 - 可変長ダイヤル ID を使用する場合、各 ID の最初の桁は他のダイヤル ID に対して一意になります。
- パーティションとサーチ スペースを確認して、使用するパーティションと検索範囲を VPIM ロケーションごとに決定します。詳細については、『*System Administration Guide for Cisco Unity Connection*』 (Release 8.x)

(http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/8x/administration/guide/8xcucsagx.html から入手可能) の「Managing Partitions and Search Spaces in Cisco Unity Connection 8.x」の章の「Search Spaces and VPIM Locations」の項を参照してください。

- 着信 VPIM メッセージで受信した情報に基づいて、Connection がリモート ボイス メッセージング システム上のユーザの VPIM 連絡先レコードを自動的に作成、変更、および削除できるようにするかどうかをシステムごとに決定します。また、送信元の情報を VPIM 連絡先の表示名および内線番号にどのようにマッピングするかも決定します。
- 各リモート ボイス メッセージング システムで、Connection ユーザに、そのロケーションの受信者に対するメッセージのブラインド アドレス宛先検索を許可するかどうかを決定します。
- リモート ボイス メッセージング システムに関して、メールボックスの範囲、サーバ名、ドメイン名、IP アドレスをメモします。

ドメイン名の決定

VPIM メッセージは、<Mailbox Number>@<Domain Name> の形式で宛先指定されます。リモート ボイス メッセージング システムと Cisco Unity Connection の間でメッセージを交換するには、Connection ユーザをメッセージの宛先に指定するときにリモート ボイス メッセージング システムが使用するドメイン名を決定する必要があります。このドメイン名は、次の方法で設定します。

- リモート ボイス メッセージング システム上で、Connection に対応するロケーション プロファイルまたはノード プロファイルでドメイン名を設定します。(詳細については、リモート ボイス メッセージング システムのマニュアルを参照してください)。
- Cisco Unity Connection Administration の [システム設定 (System Settings)] > [SMTP サーバの設定 (SMTP Server Configuration)] ページの [SMTP ドメイン (SMTP Domain)] フィールド。

ドメイン名が、Connection に対応するリモート ボイス メッセージング システムのロケーション プロファイルまたはノード プロファイルですでに設定されている場合、この項の手順ではそのドメイン名を使用してください。

ドメイン名の要件

ドメイン名は、ボイス メッセージング システムを一意に識別するものです。Connection とリモート ボイス メッセージング システムで使用するドメイン名を選択する場合は、次の点に注意してください。

- Connection およびリモート ボイス メッセージング システムは、同じドメイン名を使用できません。各システムがそれぞれ一意のドメイン名を使用する必要があります。
- リモート ボイス メッセージング システムで使用されるドメイン名の一部分は、Connection で完全なドメイン名として使用できません。たとえば、Connection がドメイン名 cisco.com を使用している場合、リモート ボイス メッセージング システムは、london.cisco.com、paris-cisco.com、romecisco.com などのドメイン名を使用できません。ただし、Connection で europe.cisco.com を使用して、リモート ボイス メッセージング システムで london.cisco.com、paris-cisco.com、および romecisco.com を使用することは可能です。



注意

これらの要件を満たしていないドメイン名を選択すると、メッセージの配信に失敗します。

IP アドレスを使用した名前の解決

VPIM メッセージングは、インターネットまたは任意の TCP/IP ネットワーク上で SMTP を通じて送信されます。このため、リモート ボイス メッセージング サーバ用の名前解決メカニズムが必要です。名前解決でサポートされるのは、Domain Name System (DNS; ドメイン ネーム システム) を使用する方法です。

リモート ボイス メッセージング サーバの Fully Qualified Domain Name (FQDN; 完全修飾ドメイン名) と IP アドレスを把握しておく必要があります。FQDN は、[システム設定 (System Settings)] > [SMTP サーバの設定 (SMTP Server Configuration)] ページに表示されます。

DNS に、リモート ボイス メッセージング サーバのホストアドレス リソース (A) レコードとメール交換 (MX) レコードを追加します。

A レコードと MX レコードを DNS に追加する方法の詳細については、DNS サーバのマニュアルを参照してください。

リモート ボイス メッセージング システムとの接続性の確認

SMTP メッセージの送受信を処理するサーバがリモート ボイス メッセージング サーバとネットワーク接続されていることを確認し、逆方向のネットワーク接続も確認します。

別のボイス メッセージング サーバがあるネットワークでは、そのサーバ上で SMTP サービスまたはゲートウェイをインストールおよび設定することが必要な場合があります。SMTP サービスまたは SMTP ゲートウェイをインストールする方法については、相手側のボイス メッセージング システムのマニュアルを参照してください。先に進む前に、SMTP サービスまたはゲートウェイが他のボイス メッセージング サーバにインストールされていることを確認します。

リモート ボイス メッセージング サーバとのネットワーク接続を確認する

- ステップ 1** Connection サーバと同じローカル ネットワーク セグメントにあるコンピュータを使用して、コマンドプロンプト ウィンドウを開きます。
- ステップ 2** 「ping <IP アドレス>」と入力し、Enter キーを押します。<IP アドレス> は、リモート ボイス メッセージング サーバの IP アドレスです。
応答がない場合は、問題が解決されるまでネットワーク接続性の問題をトラブルシューティングします。その後 **ステップ 3** に進みます。
- ステップ 3** 「ping <ドメイン名>」と入力します。<ドメイン名> は、リモート ボイス メッセージング サーバをメッセージの宛先に指定するために使用されるドメイン名です。このステップのドメイン名は、VPIM ネットワーキングの設定時に Cisco Unity Connection Administration で VPIM ロケーションに対して入力したドメイン名です。
- ステップ 4** **ステップ 2** で IP アドレスに ping を実行したときに応答を受信し、**ステップ 3** でドメイン名に ping を実行したときに応答を受信しない場合は、「IP アドレスを使用した名前の解決」(P.4-5) を参照してください。問題が解決されたら、**ステップ 5** に進みます。
- ステップ 5** 反対方向のネットワーク接続性をテストします。Connection 以外のシステムでテストを実施する方法については、マニュアルを参照してください。**ステップ 6** に進みます。この手順中の残りの手順は、各自のシステムで必要な手順と正確に一致せず、調整が必要な場合があります。
- ステップ 6** リモート サーバ上で、着信 SMTP メッセージを処理するローカル サーバの IP アドレスに対して ping を実行します。
応答がない場合は、問題が解決されるまでネットワーク接続性の問題をトラブルシューティングします。その後 **ステップ 7** に進みます。

- ステップ 7** リモート サーバ上で、ドメイン名に対して ping を実行します。このドメイン名は「ドメイン名の決定」(P.4-4) で決定したドメイン名です。
- ステップ 8** ドメイン名による ping が失敗する場合は、「IP アドレスを使用した名前の解決」(P.4-5) を参照してください。



(注) オプションで、CLI コマンド「utils network ping」を使用してネットワーク接続を確認できます。

リモート ボイス メッセージング サーバとの SMTP 接続性を確認するには

- ステップ 1** Connection サーバと同じローカル ネットワーク セグメントにあるコンピュータを使用して、コマンドプロンプト ウィンドウを開きます。
- ステップ 2** 「telnet <サーバ名> 25」と入力します。<サーバ名> は、TCP ポート 25 を使用している SMTP サーバの IP アドレスまたは FQDN です。
- ステップ 3** 各コマンドを入力後、Enter キーを押します。
- ステップ 4** リモート メッセージング サーバが SMTP に接続されている場合は、サーバの FQDN や SMTP のバージョンとともに 220 応答が返されます。
- ステップ 5** telnet テストが成功した場合は、quit と入力して telnet セッションを終了します。

VPIM ロケーションの作成

ユーザのメッセージ送信先となるリモート ボイス メッセージング システムごとに、Cisco Unity Connection 上に VPIM ロケーションを作成します。Connection でメッセージの交換相手となるボイス メッセージング システムの数が多い場合、ここでは、いくつかの VPIM ロケーションだけを設定して以降の設定に進むこともできます。Connection と、VPIM ロケーションが設定されたボイス メッセージング システムの間でメッセージ交換が正常に機能することを確認した後に、残りの VPIM ロケーションを作成します。

VPIM ロケーションを作成する

- ステップ 1** Cisco Unity Connection Administration で、[ネットワーク (Networking)] を展開し、[VPIM] を選択します。
- ステップ 2** [VPIM ロケーションの検索 (Search VPIM Locations)] ページで、[新規追加 (Add New)] を選択します。
- ステップ 3** [VPIM ロケーションの新規作成 (New VPIM Location)] ページで、適切な基本設定を入力します。(フィールド情報については、[ヘルプ (Help)] メニューで、[このページ (This Page)] を選択してください)。



(注) * (アスタリスク) マークの付いたフィールドは必須です。

- ステップ 4** [保存 (Save)] を選択します。
- ステップ 5** [VPIM ロケーションの編集 (Edit VPIM Location)] ページで、引き続き適切な設定を入力します。

- ステップ 6** [VPIM ロケーションの編集 (Edit VPIM Location)] ページで設定の入力が終了したら、[保存 (Save)] を選択します。

VPIM ロケーションのカスタマイズ

Cisco Unity Connection Administration を使用して、ユーザのメッセージ送信先となる各リモート ボイス メッセージング システムの VPIM ロケーションをカスタマイズできます。

VPIM ロケーションをカスタマイズする

- ステップ 1** Cisco Unity Connection Administration で、[ネットワーク (Networking)] を展開し、[VPIM] を選択します。
- ステップ 2** [VPIM ロケーションの検索 (Search VPIM Locations)] ページで、カスタマイズする VPIM ロケーションの表示名を選択します。
- ステップ 3** [VPIM ロケーションの編集 (Edit VPIM Location)] ページで、必要な設定を変更します。(フィールド情報については、[ヘルプ (Help)] メニューで、[このページ (This Page)] を選択してください。)
- ステップ 4** [VPIM ロケーションの編集 (Edit VPIM Location)] ページで設定の変更が終了したら、[保存 (Save)] を選択します。

VPIM 連絡先の作成

いくつかの VPIM 連絡先だけをテスト用に先に作成して、Cisco Unity Connection とリモート ボイス メッセージング システムが正常にメッセージを交換できることを確認することをお勧めします。Connection とリモート ボイス メッセージング システム間のメッセージ交換が正常に機能することを確認した後に、残りすべての VPIM 連絡先を作成できます。最初に VPIM ロケーションを作成して、次に VPIM 連絡先を作成する必要があることに注意してください。VPIM 連絡先は、VPIM ロケーションを作成した Connection サーバ上に作成する必要があります。

VPIM 連絡先は、Bulk Administration Tool または Cisco Unity Connection Administration を使用して作成できます。次の項を参照してください。

- 「[Bulk Administration Tool を使用した複数の VPIM 連絡先の作成](#)」 (P.4-7)
- 「[CSV のエラーの修正](#)」 (P.4-9)
- 「[Cisco Unity Connection Administration を使用した VPIM 連絡先の作成](#)」 (P.4-10)
- 「[VPIM 連絡先を作成した後の作業](#)」 (P.4-11)

Bulk Administration Tool を使用した複数の VPIM 連絡先の作成

Bulk Administration Tool (BAT) を使用すると、連絡先データを Comma-Separated Value (CSV; カンマ区切り形式) ファイルからインポートして、一度に複数の VPIM 連絡先を作成できます。CSV は、データストア間でデータを移動するための一般的なテキスト ファイル形式です。

次の手順を使用して、CSV ファイルを準備します。

VPIM 連絡先を作成するための CSV ファイルを準備する

- ステップ 1** VPIM 連絡先の作成に使用するデータを CSV ファイルとして保存します。
- 1 つの CSV ファイルに含めるレコードは、7,500 以下にすることを勧めます。この数を超えた場合、Bulk Administration Tool でデータをインポートするときに予期しない結果が生じることがあります。
- ステップ 2** CSV ファイルを適切なディレクトリにコピーします。
- ステップ 3** CSV ファイルを、スプレッドシート アプリケーション、またはデータの編集と再構成ができる別のアプリケーションで開きます。次の手順を実行します。
- ファイル内のデータがカンマで区切られ、タブ、スペース、セミコロンで区切られていないことを確認します。
 - 空白文字、引用符、またはカンマがデータに含まれている場合は、文字列を引用符で囲みます。
- ステップ 4** データを再配置して、カラムが、**ステップ 5** に追加するカラム ヘッダーと同じ順序になるようにします。カラム ヘッダーの順序は順不同ですが、CSV ファイルを次に示すように設定することを推奨します。たとえば、次の例のデータ カラムは、連絡先のエイリアス、ユーザの姓、名、内線番号、リモート メールボックス ID (RemoteMailAddress)、VPIM ロケーション (DeliveryLocationDisplayName) の順になるようにソートされています。

```
aabade,Abade,Alex,2001,3000,Chicago VMS VPIM Location
kbader,Bader,Kelly,2002,3100,Chicago VMS VPIM Location
tcampbell,Campbell,Terry,2003,3200,Chicago VMS VPIM Location
lcho,Cho,Li,2004,3300,Chicago VMS VPIM Location
```



(注) 連絡先の作成に必要なカラム ヘッダーは、エイリアスと内線番号だけです。ただし、VPIM 連絡先を作成するには、リモート メールボックス ID と VPIM ロケーションのカラムも含める必要があります。

- ステップ 5** 最初のデータ行の上に、カラム ヘッダーを入力します。カラム ヘッダーは、カンマで区切って入力する必要があります。次に例を示します。
- ```
Alias,LastName,FirstName,Extension,RemoteMailAddress,DeliveryLocationDisplayName
```
- ステップ 6** 必要に応じて、先頭行にオプションのカラムを追加し、それに対応するインポート対象のデータを次の行以降に追加します。追加するときは、次の点を確認してください。
- カラム ヘッダーとデータがカンマで区切られていること。オプションのカラム ヘッダーについては、すべての行にデータが含まれている必要はありません。
  - 空白文字、引用符、またはカンマがデータに含まれている場合は、文字列を引用符で囲みます。



**ヒント** 内線番号を入力するか、受信者名を音声で入力することで、通常の Connection ユーザをメッセージの宛先に指定するときと同じように VPIM 連絡先をメッセージの宛先に指定できるようにするには、各連絡先に ListInDirectory ヘッダーのカラムと 1 の値を含めます。オプションのカラム ヘッダーのリストについては、『*User Moves, Adds, and Changes Guide for Cisco Unity Connection*』 (Release 8.x) ([http://www.cisco.com/en/US/docs/voice\\_ip\\_comm/connection/8x/user\\_mac/guide/8xcucmacx.html](http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/8x/user_mac/guide/8xcucmacx.html) から入手可能) の付録「Using the Cisco Unity Connection 8.x Bulk Administration Tool」にある「Required and Optional CSV Fields for Contacts」の表を参照してください。



- ステップ 7** CSV ファイルに、インポートしないデータの列がある場合は、その列を削除します。または、1 つの列を NOTES というタイトルにします。BAT では、NOTES という列 ヘッダーの下にあるデータは無視されます。ただし、CSV ファイルに NOTES 列を複数含めることはできません。
- ステップ 8** 各行に、各列 ヘッダーに対応する適切なデータが含まれていることを確認します。
- ステップ 9** ファイルを CSV ファイルとして保存します。
- ステップ 10** 次の「[Bulk Administration Tool を使用して VPIM 連絡先を作成する](#)」の手順に進みます。

---

### Bulk Administration Tool を使用して VPIM 連絡先を作成する

---

- ステップ 1** Cisco Unity Connection Administration で [Tools (ツール)] を展開し、[一括管理ツール (Bulk Administration Tool)] を選択します。
- ステップ 2** [一括管理ツール (Bulk Administration Tool)] ページで、[操作の選択 (Select Operation)] の下の [作成 (Create)] を選択します。
- ステップ 3** [オブジェクトタイプの選択 (Select Object Type)] の下の [システム連絡先 (System Contacts)] を選択します。
- ステップ 4** [ファイルの選択 (Select File)] の下の [参照 (Browse)] を選択します。
- ステップ 5** [ファイルの選択 (Select File)] ダイアログボックスで、「[VPIM 連絡先を作成するための CSV ファイルを準備する \(P.4-8\) の手順](#)」で作成した CSV ファイルを保存したディレクトリを参照し、[開く (Open)] を選択します。
- ステップ 6** [エラーログ ファイル名 (Failed Objects Filename)] フィールドに、エラーが記録されるファイルのパスと名前を入力します。
- ステップ 7** [送信 (Submit)] を選択します。
- 

## CSV のエラーの修正

VPIM 連絡先の作成に失敗したデータは、失敗したオブジェクトのファイルに記録されます。Bulk Administration Tool は、CSV ファイル内の各行で最初に検出したエラーを報告します。エラーを修正してデータを再度インポートしたとき、同じ行にある別のエラーが BAT によって検出される場合があります。このような修正プロセス (BAT を実行してエラーを修正) を何回か繰り返して、すべてのエラーを検出し、修正する必要があります。

失敗したオブジェクトのファイルには、VPIM 連絡先の作成に失敗したレコードがすべて含まれています。このファイルを CSV ファイルとして保存し、BAT を再度実行するときに利用できます。BAT を実行すると、失敗したオブジェクトのファイルはその都度上書きされることに注意してください。

### VPIM 連絡先の作成時に発生した CSV エラーを修正する

---

- ステップ 1** Bulk Administration Tool 操作が失敗した場合は、[失敗したオブジェクト ファイルのダウンロード (Download the Failed Objects File)] を選択すると、失敗したオブジェクトのレポート ファイルをただちに検証できます。
- ステップ 2** このファイルを開き、各レコードの [FailureReason] 列の情報を参照して、データの問題をすべて修正します。
- ステップ 3** [FailureReason] 列を削除するか、またはヘッダーを「**JUNK**」に変更します。
- ステップ 4** データの修正が完了した後、このファイルを新しい名前でも CSV ファイルとして保存します。

- ステップ 5** ステップ 4 で保存した CSV ファイルを入力ファイルとして使用して、BAT を再度実行します。BAT を実行するたびに、失敗したオブジェクトのファイルが上書きされることに注意してください (ただし、このツールを実行するたびに新しいファイル名を指定すると、上書きされません)。
- ステップ 6** すべての VPIM 連絡先アカウントがエラーのない状態で作成されるまで、この手順を繰り返します。次に、「[VPIM 連絡先を作成した後の作業](#)」(P.4-11) に進みます。

## Cisco Unity Connection Administration を使用した VPIM 連絡先の作成

Cisco Unity Connection Administration を使用して、VPIM 連絡先を 1 つずつ作成できます。

### Cisco Unity Connection Administration を使用して VPIM 連絡先を作成する

- ステップ 1** Cisco Unity Connection Administration で、[連絡先 (Contacts)] を展開して [連絡先 (Contacts)] を選択します。
- ステップ 2** [連絡先の検索 (Search Contacts)] ページで、[連絡先 (Contact)] メニューの [連絡先の新規作成 (New Contact)] を選択します。
- ステップ 3** [連絡先の新規作成 (New Contact)] ページで、次の設定を入力して [保存 (Save)] を選択します。

表 4-1 [連絡先の新規作成 (New Contact)] ページの設定

| フィールド                        | 設定                          |
|------------------------------|-----------------------------|
| エイリアス (Alias)                | VPIM 連絡先のエイリアスを入力します。       |
| 名 (First name)               | VPIM 連絡先の名を入力します。           |
| 姓 (Last name)                | VPIM 連絡先の姓を入力します。           |
| 表示名 (Display Name)           | VPIM 連絡先の表示名を入力します。         |
| 連絡先テンプレート (Contact Template) | VPIM 連絡先の基礎となるテンプレートを選択します。 |

- ステップ 4** [連絡先の基本情報の編集 (Edit Contact Basics)] ページで、次の設定を入力して [保存 (Save)] を選択します。

表 4-2 [連絡先の基本情報の編集 (Edit Contact Basics)] ページの設定

| フィールド                         | 設定                                                                                                                                                                                                        |
|-------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 音声名 (Voice Name)              | [再生/録音 (Play/Record)] を選択して、VPIM 連絡先の名前を録音します。                                                                                                                                                            |
| ディレクトリに登録 (List in Directory) | この VPIM 連絡先を Connection のディレクトリに表示するには、このチェックボックスをオンにします。                                                                                                                                                 |
| パーティション (Partition)           | VPIM 連絡先が所属するパーティションを選択します。パーティションはグループ化されて検索スペースになります。検索スペースは、ユーザまたは外部発信者が Connection と対話しているときに到達できるオブジェクト (たとえば、ユーザや同報リスト) の範囲を定義するために使用されます。VPIM 連絡先は 1 つのパーティションだけに所属できます。パーティションは、複数の検索スペースに所属できます。 |

表 4-2 [連絡先の基本情報の編集 (Edit Contact Basics)] ページの設定 (続き)

| フィールド                                                                                          | 設定                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 転送有効 (Transfer Enabled)                                                                        | (省略可能) Connection が、VPIM 連絡先のリモート メールボックスにメッセージを送信するのではなく、VPIM 連絡先に関連付けられている電話番号に着信通話を転送するようにする場合は、このチェックボックスをオンにします。                                                                                                                                                                    |
| 転送先内線番号 (Transfer Extension)                                                                   | (省略可能) 電話システムが、VPIM 連絡先に通話を転送するときに使用する電話番号を、必要に応じてアウトダイヤル アクセス コードを含めて入力します。このフィールドは、[転送有効 (Transfer Enabled)] フィールドと連携します。                                                                                                                                                              |
| 配信ロケーション (Delivery Location)                                                                   | VPIM 連絡先の VPIM ロケーションを選択します。                                                                                                                                                                                                                                                             |
| VPIM リモート メールボックス番号 (VPIM Remote Mailbox Number)                                               | リモート ボイス メッセージング システム上の VPIM 連絡先のメールボックス番号を入力します。                                                                                                                                                                                                                                        |
| ローカル内線番号 (Local Extension)                                                                     | (省略可能) VPIM 連絡先に対して、Connection 内線番号方法に適合するローカル内線番号を割り当てられます。ローカル内線番号を使用すると、発信者は、内線番号を使用して VPIM 連絡先をメッセージの宛先に指定できるため、連絡先のロケーション ID とリモート メールボックス番号を覚えておく必要はありません。<br><br>さらに、[転送有効 (Transfer Enabled)] フィールドと [転送先内線番号 (Transfer Extension)] フィールドを設定した場合、発信者は VPIM 連絡先を識別し、その連絡先に転送されます。 |
| ボイス コマンドを使用して連絡先にコールする電話番号 (Phone Numbers to Call Contact by Using Voice Commands)             | (省略可能) 音声認識ユーザが、連絡先の特定の電話のタイプを指定して、VPIM 連絡先を呼び出せるようにするには、[ダイヤルする職場の番号 (Dialed Work Phone)]、[ダイヤルする自宅の番号 (Dialed Home Phone)]、[ダイヤルする携帯電話 (Dialed Mobile Phone)] の各フィールドを使用します。<br><br>ダイヤルする電話番号には、外部通話のダイヤルに必要な追加の番号 (たとえば 9) や、長距離ダイヤルに必要な追加の番号 (たとえば 1) を含めません。                       |
| パーソナル着信転送ルールの連絡先を識別する電話番号 (Phone Numbers to Identify Contact for Personal Call Transfer Rules) | (省略可能) Connection がシステム連絡先からの着信通話に対してユーザのパーソナル着信転送ルールを照合するときに使用する電話番号を入力するには、[職場の電話 (Work Phone)]、[自宅の電話 (Home Phone)]、[携帯電話 (Mobile Phone)]、[別の電話番号 1 (Other Number 1)]、および [別の電話番号 2 (Other Number 2)] の各フィールドを使用します。                                                                  |

**ステップ 5** 作成する残りすべての VPIM 連絡先について、[ステップ 2](#)～[ステップ 4](#) を繰り返します。

## VPIM 連絡先を作成した後の作業

VPIM 連絡先を作成した後は、次の点に注意してください。

- 新しく作成した VPIM 連絡先をメッセージの受信に使用できるようになるまでに、数分かかります。

- 個々の VPIM 連絡先の設定は、Cisco Unity Connection Administration で変更できます。
- 内線番号など、VPIM 連絡先の一意の設定を複数の連絡先について一度に変更するには、Bulk Administration Tool を再度実行します。
- VPIM 連絡先が Connection アカウントを必要としなくなった場合は、その VPIM 連絡先を削除できます。詳細については、「Cisco Unity Connection 8.x での VPIM 連絡先の削除」(P.4-16) を参照してください。

## VPIM 連絡先ディレクトリの更新設定のカスタマイズ

VPIM 連絡先を手動で作成、変更、削除するほかに、Cisco Unity Connection の設定を変更することで、着信 VPIM メッセージに含まれている情報に基づいて VPIM 連絡先ディレクトリ内のレコードを自動的に更新できます。作成、変更、削除の操作を自動的に実行するかどうか、および着信情報をレコードの作成または変更でどのように使用するかを制御する設定値は、VPIM ロケーションごとに個別に設定できます。デフォルトでは、どの VPIM ロケーションについてもディレクトリの自動更新は実行されません。

管理者が VPIM ロケーションごとに選択する [連絡先作成 (Contact Creation)] の設定に応じて、Connection は着信 VPIM メッセージのヘッダーから情報を取得して使用します。VPIM メッセージを VPIM ロケーション上の送信者から受信し、そのロケーションが VPIM 連絡先を自動作成できるように設定されている場合、その送信者の情報と一致する既存の VPIM 連絡先がないときは、新しい VPIM 連絡先レコードが作成されます。ただし、VPIM メッセージに次の情報が含まれている必要があります。

- 電話番号
- テキスト名
- ドメイン名
- 名前の録音 (VPIM ロケーションの設定に応じて、必要な場合)

この他の [連絡先作成 (Contact Creation)] 設定を使用すると、VPIM 連絡先の解析されたテキスト名を、姓、名、表示名にどのようにマッピングするか、および電話番号を内線番号にどのようにマッピングするかを指定できます。



(注)

VPIM ロケーションの [連絡先作成 (Contact Creation)] ページにある [VPIM の連絡先の内線番号のマッピング先 (Map VPIM Contact extensions to)] 設定を変更した場合、変更内容が適用されるのは、設定を保存した後に作成される VPIM 連絡先だけです。[VPIM の連絡先の内線番号のマッピング先 (Map VPIM Contact extensions to)] の設定を変更する前から存在している VPIM 連絡先は、自動的に更新されません。この VPIM ロケーションの既存 VPIM 連絡先の内線番号は、それぞれ手動で変更する必要があります。

VPIM メッセージを配信ロケーション上の送信者から受信し、そのロケーションが VPIM 連絡先を自動変更できるように設定されている場合、その送信者の情報と一致する既存の VPIM 連絡先があるときは、VPIM 連絡先が更新されます。VPIM 連絡先の情報は、VPIM 連絡先からメッセージを受信するたびに更新することも、メッセージを VPIM 連絡先から受信したときに、その連絡先のテキスト名がディレクトリ エントリの作成後に変更されている場合に限り、更新することもできます。また、変更する際に、表示名に対する更新を許可するかどうかも決定できます。

Connection ユーザから VPIM 連絡先にメッセージを送信して Non-Delivery Receipt (NDR; 不達確認) が発生した場合は、宛先となる受信者が存在しないためにメッセージを配信できなかったことを示します (SMTP 5.1.1)。VPIM ロケーションが VPIM 連絡先を自動削除できるように設定されている場合、この VPIM 連絡先は削除されます。

VPIM ロケーションの連絡先作成の設定値は、Cisco Unity Connection Administration を使用して更新できます。次の項を参照してください。

- 「VPIM 連絡先作成の設定値を設定する前に」 (P.4-13)
- 「Cisco Unity Connection Administration を使用した VPIM 連絡先の作成設定値の設定」 (P.4-13)

## VPIM 連絡先作成の設定値を設定する前に

VPIM ロケーションの連絡先作成の設定値を設定する場合は、次の点を事前に考慮してください。

- 変更できない固有の表示名を VPIM 連絡先にあらかじめ入力しておき、連絡先レコードの他のフィールドについては自動変更できるようにするには、[VPIM の連絡先の表示名の更新を許可する (Allow VPIM Contact Display Name Updates)] チェックボックスをオフのままにします。この場合、連絡先の姓、名、および名前の録音は自動更新によって変更される可能性があります。これにより、音声名が更新され表示名が更新されない場合に、不一致が発生します。
- [録音名なしの VPIM の連絡先を許可する (Allow VPIM Contacts Without Recorded Voice Names)] チェックボックスがオフになっている場合、着信メッセージに Originator-Spoken-Name 添付ファイルが含まれていないときは、新しい VPIM 連絡先が作成されません。また、VPIM 連絡先の自動変更が有効になっている場合、着信メッセージの送信者が既存の VPIM 連絡先と一致し、メッセージにこの添付ファイルが含まれていないときは、当該の VPIM 連絡先が削除されます。
- [録音名なしの VPIM の連絡先を許可する (Allow VPIM Contacts Without Recorded Voice Names)] チェックボックスがオンで、VPIM 連絡先の自動変更が有効になっている場合、着信メッセージに Originator-Spoken-Name 添付ファイルが含まれていない場合、送信者が既存の VPIM 連絡先と一致したときは、既存の名前の録音が削除されます。
- [VPIM の連絡先の内線番号のマップ先 (Map VPIM Contact Extensions To)] フィールドで選択されたオプションを使用して、着信メッセージに含まれている電話番号を内線番号に正しくマッピングできない場合、その送信者の VPIM 連絡先は作成されません。

## Cisco Unity Connection Administration を使用した VPIM 連絡先の作成設定値の設定

VPIM ロケーションを作成した後は、その VPIM ロケーションのディレクトリ自動更新を制御する設定値を Cisco Unity Connection Administration を使用して設定できます。

### Cisco Unity Connection Administration を使用して VPIM 連絡先の作成設定値を設定する

- ステップ 1** Cisco Unity Connection Administration で、[ネットワーク (Networking)] を展開し、[VPIM ロケーション (VPIM Locations)] を選択します。
- ステップ 2** [VPIM ロケーションの検索 (Search VPIM Locations)] ページで、連絡先の作成設定値を設定する VPIM ロケーションの名前を選択します。
- ステップ 3** [VPIM ロケーションの編集 (Edit VPIM Location)] ページで、[編集 (Edit)] メニューの [連絡先作成 (Contact Creation)] を選択します。
- ステップ 4** VPIM メッセージが着信したとき、その送信者に対応する VPIM 連絡先レコードがまだ存在していない場合に、このロケーションの VPIM 連絡先レコードが自動的に作成されるようにするには、[連絡先作成 (Contact Creation)] ページで [VPIM の連絡先を自動的に作成する (Automatically Create VPIM Contacts)] チェックボックスをオンにします。
- ステップ 5** **ステップ 4** で [VPIM の連絡先を自動的に作成する (Automatically Create VPIM Contacts)] チェックボックスをオンにした場合は、[連絡先テンプレート (Contact Template)] リストで、自動的に作成される連絡先の基礎となるテンプレートを選択します。



- ステップ 6** [VPIM の連絡先を自動的に変更する (Automatically Modify VPIM Contact) ] フィールドで、このロケーションの VPIM 連絡先に適用する、次のいずれかの設定を選択します。
- [ 連絡先を自動的に更新しない (No Automatic Update of Contacts) ] : 着信メッセージの送信者情報が変更されていたとき、VPIM メッセージに含まれている送信者情報を使用して VPIM 連絡先レコードを更新しません。
  - [ テキスト名が変更される時のみ (Only When the Text Name Changes) ] : VPIM メッセージで受信したテキスト名が、VPIM 連絡先の名前と一致しない場合に限り、VPIM 連絡先レコードを更新します。
  - [ 各 VPIM メッセージ (With Each VPIM message) ] : このロケーションの VPIM 連絡先から VPIM メッセージが着信するたびに、対応する VPIM 連絡先レコードが更新されます。
- ステップ 7** VPIM メッセージが配信不能として返された場合に、このロケーションの VPIM 連絡先を自動的に削除できるようにするには、[VPIM の連絡先を自動的に削除する (Automatically Delete VPIM Contact) ] チェックボックスをオンにします。
- ステップ 8** このロケーションからの着信メッセージで送信者の表示名が変更されていた場合に、VPIM 連絡先の表示名を自動的に更新できるようにするには、[VPIM の連絡先の表示名の更新を許可する (Allow VPIM Contact Display Name Updates) ] チェックボックスをオンにします。
- ステップ 9** このロケーションで、録音名を持たない VPIM 連絡先レコードに対する自動更新を有効にするには、[ 録音名なしの VPIM の連絡先を許可する (Allow VPIM Contacts Without Recorded Voice Names) ] チェックボックスをオンにします。
- ステップ 10** [テキスト名のマッピング (Mapping Text Names) ] フィールドで、このロケーションからの着信メッセージに含まれているテキスト名を、自動作成された VPIM 連絡先レコードの表示名にどのようにマッピングするかについて、次のいずれかのオプションを選択して指定します。
- [VPIM の連絡先の表示名に直接 (Directly to VPIM Contact Display Names) ] : VPIM 連絡先の表示名は、対応するテキスト名と一致します。
  - [ カスタム (Custom) ] : テキスト名から VPIM 連絡先の表示名へのマッピング方法を定義するルールを入力します。トークン <FN>、<LN>、および <TN> (それぞれ名、姓、テキスト名) を他のテキストと任意に組み合わせて入力できます。<FN>、<LN>、および <TN> の前には、空白文字、カンマ、またはセミコロン (;) を必ず入力します。ただし、ルールの先頭になる場合は除きます。また、トークンが規則の最後でない限り、必ずトークンの後にスペース、カンマ、セミコロンのいずれかを入力します。規則の先頭または末尾には、追加の文字は不要です。
- ステップ 11** [VPIM の連絡先の内線番号のマッピング先 (Map VPIM Contact Extensions To) ] フィールドで、このロケーションからの着信メッセージに含まれている電話番号を、自動作成された VPIM 連絡先レコードの内線番号にどのようにマッピングするかについて、次のいずれかの設定を選択して指定します。
- [ 電話番号 (Phone Number) ] : 内線番号は、着信 VPIM メッセージを解析して得られた電話番号と同じものになります。
  - [ 電話番号 - リモート電話プレフィックス (Phone Number - Remote Phone Prefix) ] : 内線番号は、電話番号の先頭部分からリモート電話プレフィックスを削除して生成されます。
  - [ ロケーションダイヤル ID + 電話番号 (Location Dial ID + Phone Number) ] : 内線番号は、電話番号の前にロケーションダイヤル ID を付加して生成されます。
  - [ ロケーションダイヤル ID + 電話番号 - リモート電話プレフィックス (Location Dial ID + Phone Number - Remote Phone Prefix) ] : 内線番号は、電話番号の先頭部分からリモート電話プレフィックスを削除し、残りの番号の前にロケーションダイヤル ID を付加して生成されます。
- ステップ 12** [ 保存 (Save) ] を選択します。
- ステップ 13** [VPIM ロケーション (VPIM Location) ] メニューの [VPIM ロケーションの検索 (Search VPIM Locations) ] を選択します。



**ステップ 14** 残りすべての VPIM ロケーションについて、[ステップ 2](#) ～ [ステップ 13](#) を繰り返します。

## 各 VPIM ロケーションのユーザの別名の追加

Cisco Unity Connection システムが音声認識オプションを使用する場合は、VPIM ロケーションに付ける表示名のユーザの別名を指定することもできます。ユーザは、ボイス コマンドを使用して VPIM ロケーションのメールボックス番号に対するブラインド アドレス宛先検索を実行する場合、表示名を告げます (たとえば、Seattle という VPIM ロケーションの内線番号 55 を宛先に指定する場合、ユーザは「five five at Seattle」と言います)。また、ボイス コマンドを使用して VPIM ロケーションの VPIM 連絡先名をメッセージの宛先に指定する場合も、表示名を告げます (たとえば、「Robin Smith in Chicago」)。VPIM ロケーションの表示名に管理情報が含まれており、その管理情報をユーザが知らない可能性のある場合、または、略語ではよくあることですが、VPIM ロケーションの表示名の発音が、通常考えられる読み方と異なる場合、ユーザの別名を指定することを検討してください。また、ユーザが 1 つのロケーションに対してさまざまな呼び方をする傾向にある場合も、ユーザの別名の追加を検討してください。たとえば、あるサイトのユーザがあるロケーションを「Seattle branch」と呼び、別のサイトのユーザが同じロケーションを「Seattle office」と呼ぶ場合は、「Seattle branch」と「Seattle office」の両方をユーザの別名として追加できます。

### VPIM ロケーションのユーザの別名を追加する

- ステップ 1** Cisco Unity Connection Administration で、[ ネットワーク (Networking) ] を展開し、[ VPIM ロケーション (VPIM Locations) ] を選択します。
- ステップ 2** [ VPIM ロケーションの検索 (Search VPIM Locations) ] ページで、ユーザの別名を追加する VPIM ロケーションの名前を選択します。
- ステップ 3** [ VPIM ロケーションの編集 (Edit VPIM Location) ] ページで、[ 編集 (Edit) ] メニューの [ ユーザの別名 (Alternate Names) ] を選択します。
- ステップ 4** [ ユーザの別名の編集 (Edit Alternate Names) ] ページの [ 表示名 (Display Name) ] フィールドに VPIM ロケーションのユーザの別名を入力し、[ 新規追加 (Add New) ] を選択します。
- ステップ 5** [ VPIM ロケーション (VPIM Location) ] メニューの [ VPIM ロケーションの検索 (Search VPIM Locations) ] を選択します。
- ステップ 6** ユーザの別名を追加する残りすべての VPIM ロケーションについて、[ステップ 2](#) ～ [ステップ 5](#) を繰り返します。

## 別のボイス メッセージング システムを VPIM 用に設定するための Cisco Unity Connection に関する情報の収集

別のボイス メッセージング システムを、Cisco Unity Connection と VPIM メッセージを交換するように設定するには、次の情報が必要です。

- 着信 SMTP メッセージを処理する SMTP サーバのサーバ名とドメイン名。
- 対応する VPIM ロケーション ページで入力した、Connection の電話プレフィックスおよびリモート電話プレフィックス (それぞれ存在する場合)。
- Connection ユーザのメールボックス番号の範囲。

着信 VPIM メッセージは、この SMTP サーバにルーティングする必要があります。リモート ボイス メッセージング システム上で Connection のロケーションを定義するときは、この SMTP サーバに対して入力したドメイン名を使用します。

Connection は、着信 VPIM メッセージが次の形式になっていることを前提としています。

```
<ConnectionPhonePrefix+ConnectionUserExtension@PrimaryLocationSMTPDomainName>
```

これらの個々のプロパティは Connection で設定しますが、他のボイス メッセージング システムでも同様の情報を設定する必要があります。

## Cisco Unity Connection 8.x での VPIM 連絡先の削除

### VPIM 連絡先を削除する

- 
- ステップ 1** Cisco Unity Connection Administration で、[連絡先 (Contacts)] を展開して [連絡先 (Contacts)] を選択します。
  - ステップ 2** [連絡先の検索 (Search Contacts)] ページで、削除する VPIM 連絡先の隣にあるチェックボックスをオンにします。
  - ステップ 3** [選択項目の削除 (Delete Selected)] を選択します。
  - ステップ 4** 削除するかどうかの確認を求められたら、[OK] を選択します。
- 

## Cisco Unity Connection 8.x での VPIM ロケーションの削除

VPIM ロケーションを削除する場合は、VPIM ロケーション オブジェクトを削除する前に、そのロケーションを使用するすべての連絡先を削除する (または割り当て直す) 必要があります。次のタスク リストを使用して、VPIM ロケーションを削除します。

1. Bulk Administration Tool を使用して、管理者が定義したすべての連絡先のリストをエクスポートします。『*User Moves, Adds, and Changes Guide for Cisco Unity Connection*』 (Release 8.x) ([http://www.cisco.com/en/US/docs/voice\\_ip\\_comm/connection/8x/user\\_mac/guide/8xcucmacx.html](http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/8x/user_mac/guide/8xcucmacx.html) から入手可能) の付録「[Using the Cisco Unity Connection 8.x Bulk Administration Tool](#)」にある「Exporting Contacts to a CSV File」の項を参照してください。
2. エクスポート ファイルをダウンロードし、テキスト エディタを使用して、[DeliveryLocationDisplayName] カラムの値が、削除する VPIM ロケーションの表示名と一致する行だけを含むように、そのファイルを変更します。(連絡先を別の VPIM ロケーションに割り当て直す場合は、[DeliveryLocationDisplayName] カラムの値を更新します)。
3. Bulk Administration Tool を使用して、タスク 2. で生成された連絡先のリストを削除します。『*User Moves, Adds, and Changes Guide for Cisco Unity Connection*』 (Release 8.x) の付録「[Using the Cisco Unity Connection 8.x Bulk Administration Tool](#)」にある「Deleting Contacts」の項を参照してください。

また、連絡先を別の VPIM ロケーションに割り当て直すには、[更新 (Update)] オプションを使用します。『*User Moves, Adds, and Changes Guide for Cisco Unity Connection*』 (Release 8.x) の付録「[Using the 8.x Bulk Administration Tool](#)」にある「Updating Contacts」の項を参照してください。Cisco Unity Connection

4. Cisco Unity Connection Administration で、[テンプレート (Templates)] を展開し、[連絡先テンプレート (Contact Templates)] を選択します。連絡先テンプレートが、VPIM ロケーションを配信ロケーションとして使用するように設定されている場合は、配信ロケーションを変更するか、このテンプレートを削除します。(配信ロケーションを確認または変更するには、[連絡先テンプレートの検索 (Search Contact Templates)] ページの各テンプレートの表示名を選択する必要があります)。
5. ロケーションを削除するには、Connection の管理で [ネットワーク (Networking)] を展開し、[VPIM ロケーション (VPIM Locations)] を選択します。[VPIM ロケーションの検索 (Search VPIM Locations)] ページで、削除するロケーションの表示名の隣にあるチェックボックスをオンにして、[選択項目の削除 (Delete Selected)] を選択します。

## Cisco Unity Connection 8.x の VPIM の概念

次の項では、VPIM の概念を詳細に説明します。

- 「VPIM メッセージ」(P.4-17)
- 「VPIM アドレス」(P.4-18)
- 「メッセージの宛先指定オプション」(P.4-19)
- 「メッセージングの類似性と制限事項」(P.4-19)
- 「オーディオ形式に関する考慮事項」(P.4-20)

### VPIM メッセージ

VPIM メッセージは、MIME で符号化された 1 つ以上のパートで構成されます。VPIM の仕様では、名前の録音、および転送メッセージとテキスト メッセージのためのオプション MIME パートが許可されています。ただし、Cisco Unity Connection は vCard (電話番号、テキスト名、および電子メールアドレスが記載された電子名刺) の送受信をサポートしていません。vCard が発信メッセージまたは着信メッセージに添付されている場合、Connection は vCard のデータを削除します。また、ボイス メッセージおよび埋め込みメッセージ以外のメッセージに添付されているファイルは、発信メッセージおよび着信メッセージから削除されます。

Connection では、発信メッセージで送信者の名前の録音を送信するかどうかを指定できます。着信メッセージに名前の録音が含まれている場合は、メッセージの一部として再生されます。また、着信メッセージのヘッダーに含まれている情報でディレクトリを更新するように Connection を設定することもできます。

VPIM ロケーションへの発信メッセージに含まれる受信者は、VPIM ロケーションの受信者だけです。そのため、VPIM 受信者がメッセージ上のすべてのアドレスに返信した場合、返信は送信者と、同じ VPIM ロケーションの他の受信者にだけ送信されます。

図 4-1 に VPIM メッセージの例を示します。音声名とボイス メッセージのパートの MIME エンコーディングは、非常に長いので、一部だけを表示しています。

図 4-1 VPIM メッセージの例

```

Date: Fri, 09 Feb 2007 17:39:03 GMT
From: Kelly Bader <4258001@connecti ondomain 1.cisco.com> ← 発信者アドレス
To: 2534001@connect iondomai n2.cisco.com ← 宛先アドレス
MIME-Version: 1.0 (Voice 2.0)
Content-Type: Multi part/Voi ce-Messa ge; Version=2.0
Boundary=IM messageBo undary1
Content-Tra nsfer-En coding: 7bit
Message-ID: 12345678 9
Subject: Testing
Sensitivity : Privat e
Importance: High

--MessageBo undary
Content-Type: Audio /32KADPC M ← 音声名
Content-Tra nsfer-En coding: Base64
Content-Dis position : inline ; voice= Originat or-Spoke n-Name
Content-Lan guage: en-US
Content-ID: part1@VM2-4321

glsfldslser tflkTlp gkTportr pkTpfgTp oiTpdada sssdadas dasd
<< The rest of the MIME enc oding of the spoken name has been deleted. >>
fghgddfkgpo kpeowrit 09== ←

--MessageBo undary
Content-Type: Audio /32KADPC M ← ボイス メッセージ
Content-Tra nsfer-En coding: Base64
Content-Des cription : VPIM Message
Content-Dis position : inline ; voice=Voice-Me ssa ge; filename=msg1.726
Content-Dur ation: 25

u7wj0yRhws+ krdns7Rj u0t4tLF7 cE0KoMx0 TOnRWPn3 0c8uH9
<< The rest of the MIME enc oding of the voice message has be en delet ed. >>
7/8e)Q== ←

```

191734

## VPIM アドレス

VPIM アドレスの形式は、一般的な SMTP 電子メール アドレス `localpart@hostpart` と同じです。アドレスの右側の部分は、メッセージを処理する TCP/IP ネットワーク上のシステムのドメイン名です。アドレスの左側の部分は、ユーザの一意の識別子です。通常、左側はユーザのメールボックス番号か、プレフィックス付きのメールボックス番号です。

たとえば、リモート メールボックス ID が 2233 である Terry Campbell に発信する VPIM メッセージの宛先は、次のように指定されます。

To: 2233@remotevoicemailsyst em.com

各組織の番号計画に適応させる必要がある場合は、次のようにアドレスにプレフィックスを含めることもできます。

To: 8882233@remotevoicemailsyst em.com

VPIM アドレスは、VPIM メッセージの送信時に Cisco Unity Connection によって作成されます。メッセージの宛先を指定するときにユーザが入力することはありません。

## メッセージの宛先指定オプション

Cisco Unity Connection では、次の方法によって、リモート ボイス メッセージング システム上の個人をメッセージの宛先に指定できます。

- **Connection ディレクトリ** : VPIM 連絡先の [ディレクトリに登録 (List in Directory)] チェックボックスがオンになっている場合、Connection ディレクトリに VPIM 連絡先の名前と内線番号が保持されます。ユーザは、内線番号を入力するか、受信者名を音声で入力することで、通常の Connection ユーザをメッセージの宛先に指定するときと同じように VPIM 連絡先をメッセージの宛先に指定できます。VPIM 連絡先の名前の録音が存在する場合は、名前の録音の確認を使用できます。連絡先の名前の録音が存在しない場合、Connection は、テキスト/スピーチを使用して、連絡先の表示名を再生します。
- **ブラインド アドレス宛先検索** : ブラインド アドレス宛先検索を使用すると、VPIM ロケーションの受信者が Connection ディレクトリに連絡先として定義されていない場合でも、ユーザはその受信者にメッセージを送信できます。[VPIM ロケーション (VPIM Location)] ページで [ブラインド アドレス宛先検索を許可する (Allow Blind Addressing)] チェックボックスがオンである場合、ユーザは、受信者の VPIM ロケーションダイヤル ID とメールボックス番号で構成される番号を入力するか、またはメールボックス番号と VPIM ロケーションの表示名を告げることにより (たとえば、「five five at Seattle office」)、そのロケーションの受信者をメッセージの宛先に指定できます。
- **同報リスト** : ユーザは、VPIM 連絡先が含まれているプライベート同報リストまたはシステム同報リストをメッセージの宛先に指定できます。リストに送信すると、VPIM 連絡先がメッセージを受信します。

## メッセージングの類似性と制限事項

Cisco Unity Connection ユーザとリモート ボイス メッセージング システム上のユーザ間で行われるメッセージ交換は、ほとんどの部分で Connection ユーザ間のメッセージ交換と同じです。次の例を参考にしてください。

- 送信の際に緊急とマークされたメッセージは、受信者が受信するときに緊急とマークされます。
- 送信の際にプライベートとマークされたメッセージは、受信者が受信するときにプライベートとマークされます。
- ユーザは、VPIM 連絡先が含まれている Connection 同報リストにメッセージを送信できます。

ただし、次の例外に注意してください。

- 開封確認と送信確認は、どちらも送信確認として返されます。
- リモート ボイス メッセージング システム上のユーザが Connection 同報リストにメッセージを送信するためには、Connection の管理の [同報リストの基本設定の編集 (Edit Distribution List Basics)] ページで [外部のシステムからのメッセージを受け入れる (Accept Messages From Foreign System)] チェックボックスがオンになっている必要があります。デフォルトでは、このチェックボックスはオンになっていません。

## オーディオ形式に関する考慮事項

VPIM ロケーションの [ 音声形式の変換 (Audio Format Conversion) ] 設定 (Cisco Unity Connection Administration の [ システム設定 (System Settings) ] > [ VPIM ロケーションの編集 (Edit VPIM Location) ] ページ) では、発信および着信する VPIM メッセージのオーディオ形式について、次の項目を制御できます。

- [ 着信メッセージ (Incoming Messages) ]: 着信する VPIM メッセージを、送信されたときの形式で格納するか、Cisco Unity Connection でメッセージの録音に使用されるオーディオ形式に変換するかを設定できます。
- [ 発信メッセージ (Outbound Messages) ]: 発信する VPIM メッセージを、録音されたときの形式で送信するか、G.726 コーデックに変換するかを設定できます。

これらの設定を決定するときは、次の事項を考慮してください。

- ローカル Connection サーバがボイス メッセージの録音と再生に使用するオーディオ形式。
- リモート ボイス メッセージング システムが VPIM メッセージの送受信に使用できるオーディオ形式。一部のボイス メッセージング システムは、VPIM メッセージで G.726 形式しかサポートしていません。ただし、確実な情報についてはリモート ボイス メッセージング サーバのマニュアルを参照する必要があります。
- ネットワークの帯域幅。

着信 VPIM メッセージは、ローカル Connection サーバがメッセージの録音と再生に使用しているものと同じオーディオ形式で格納することをお勧めします。